(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2006-333893
(P2006-333893A)
(43)公開日　平成18年12月14日(2006.12.14)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A61F 13/02	(2006.01)	A61F	13/02	310T	
		A61F	13/02		
		A61F	13/02	310M	

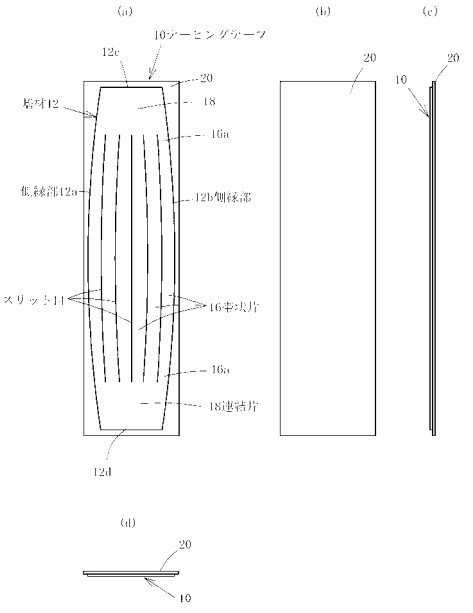
審査請求 未請求　請求項の数 2　OL　（全 6 頁）

(21)出願番号　特願2005-158561 (P2005-158561)
(22)出願日　平成17年5月31日 (2005.5.31)

(71)出願人　591067989
江崎器械株式会社
京都府長岡京市神足下八ノ坪４４－２
(74)代理人　100095430
弁理士　廣澤　勲
(72)発明者　江崎　健三
京都府長岡京市神足下八ノ坪４４－２　江崎器械株式会社内

(54)【発明の名称】テーピングテープ

(57)【要約】
【課題】　確実に身体に密着した状態で粘着され、患部や貼付部位の形状にあわせて自由な形状に帯状片を広げることができるテーピングテープを提供する。
【解決手段】　収縮性を有する基材１２と、基材１２の片面に取り付けられた粘着層と、基材１２の内側に一方向に沿って形成され互いに平列に並べられた複数本のスリット１４を有する。基材１２のスリット１４の端部近傍の両側縁部１２ａ，１２ｂは、スリット１４の端部近傍からスリット１４の延長上に位置する基材端部１２ｃ，１２ｄまで、互いに内側に向かって斜めに形成されている。スリット１４の端部は側縁部１２ａ，１２ｂに沿って基材１２の内側に向かって曲げられている。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
収縮性を有する基材と、前記基材の片面に取り付けられた粘着層と、前記基材の内側に一方向に沿って形成され互いに平列に並べられた複数本のスリットが設けられたテーピングテープにおいて、前記基材の前記スリットの端部近傍の両側縁部は、前記スリットの端部近傍から前記スリットの延長上に位置する基材端部まで、互いに内側に向かって斜めに形成され、前記スリットの端部は前記側縁部に沿って前記基材の内側に向かって曲げられていることを特徴とするテーピングテープ。
【請求項２】
前記基材の前記スリットに沿う両側縁部は、外側に膨らむ曲線で形成され、前記スリットは、前記基材の長手方向に沿って形成され、前記側縁部に沿う曲線で形成されていることを特徴とする請求項１記載のテーピングテープ。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、筋肉や関節の疼痛の緩和や障害予防のために用いられるテーピングテープに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、筋肉の疼痛の緩和のために、いろいろな方法のテーピングが行われている。例えば、筋肉の痛い部分を補助しながら、疼痛が広がらないように囲む方法が考えられ、これに適したテーピングテープが提供されている。このテーピングテープは、縦横に伸縮可能な基材で作られ、一定幅の帯体が所定長さに切断されて設けられている。この基材の片面には粘着材が塗布された粘着層が設けられ、粘着層の外側には剥離シートが取り付けられている。そして基材には、基材の長手方向に平行にスリットが設けられている。スリットは、同じ長さの複数本が、基材の長手方向に対して直交する方向に並べられて設けられている。そして一対のスリットの間は、細長の帯状片となる。スリットは、基材の長手方向の両端部から所定長さ離れた位置でとまり、基材の両端部は切り残されて、複数の帯状片の連結部となる。
【０００３】
次に、このテーピングテープの使用方法について図4に基づいて説明する。この場合は、五十肩、肩関節炎、野球肩、肩の痛み等の治療を行うものであり、患者はいすに座った自然な姿勢でテーピングを施す。まず、テーピングテープ１に取り付けられている剥離シートを剥がして粘着層を露出させ、僧帽筋（首から肩、背中にかけて走っている筋肉）中央より三角筋にかけて貼着する。次に肩の周囲を囲むように、中指くらいの間隔で帯状片２を広げていく。
【０００４】
しかし、このテーピングテープ１は、剥離シートを剥がして身体に粘着面を向けて貼付しようとするとき、複数の帯状片２が離れて互いにもつれたりしてテーピングテープ１の形状が崩れ、身体への貼着が難しくなるという問題がある。また、帯状片２が捻れて粘着層同士が粘着して取り扱いが面倒になることもある。これを解決するために、以下の特許文献１に開示されている治療用テープがあった。この治療用テープは、身体に貼着される粘着面の反対側面に、複数のスリットにまたがるように連結部材が離脱自在に取り付けられているものである。連結部材は、シート部材や線状部材等である。
【特許文献１】特開２００２－２３８９４４号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】

しかし、この従来のテーピングテープ１は、基材を一方向に長い矩形である帯体状に切断して作られているため、図4に示すように、帯状片２を広げて身体に粘着すると、帯状片２の基端部が曲げられて基材の伸縮では吸収できずに、皺３が生じたり剥がれて身体から浮き上がったりすることがあり、確実に貼り付けることができなった。このようにテーピングテープ１が身体から浮き上がった状態でその上から衣服を着用すると、表面に凹凸が生じて体に当たり違和感があった。また、剥がれた状態では、痛みを取る効果が低くなり、十分な痛み防止効果を得ることができなかった。

【０００６】

この発明は、上記従来の技術の問題点に鑑みてなされたものであり、確実に身体に密着した状態で粘着され、患部や貼付部位の形状にあわせて自由な形状に帯状片を広げることができるテーピングテープを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

本発明は、収縮性を有する基材と、前記基材の片面に取り付けられた粘着層と、前記基材の内側に一方向に沿って形成され互いに平列に並べられた複数本のスリットが設けられたテーピングテープであって、前記基材の前記スリットの端部近傍の両側縁部は、前記スリットの端部近傍から前記スリットの延長上に位置する基材端部まで、互いに内側に向かって斜めに形成され、前記スリットの端部は前記側縁部に沿って前記基材の内側に向かって曲げられているテーピングテープである。

【０００８】

さらに、前記基材の前記スリットに沿う両側縁部は、外側に膨らむ曲線で形成され、前記スリットは、前記基材の長手方向に沿って形成され、前記側縁部に沿う曲線で形成されている。

【発明の効果】

【０００９】

本発明のテーピングテープは、確実に身体に密着して粘着され、患部や貼付部位の形状に合わせて自由な形状に帯状片を広げることができ、皺になりにくく、疼痛を緩和し、効果的に障害を予防することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

以下、この発明の実施形態について図面に基づいて説明する。図１はこの発明の一実施形態を示すもので、この実施形態のテーピングテープ１０は、柔軟性を有する編物等であり縦横の二方向に平均的に伸縮性を有する基材１２で作られている。基材１２の伸縮性は、人体の皮膚及び靭帯、筋肉等により近く作られ、疼痛のある部分へのソフトなフィット感と適度な固定感を得られるものとする。基材１２の素材は、例えばナイロン系が使用されている。これは水濡れに強く、通気性があり、かゆみやかぶれを抑えるものである。

【００１１】

基材１２は、一方向に長い略帯状に切断され、長手方向に沿う一対の側縁部１２ａ，１２ｂは、中央付近が外側に膨出する曲線で形成されている。これにより、基材１２の長手方向の中央付近は太くなっている。基材１２の長手方向の端部に位置する一対の基材端部１２ｃ，１２ｄは、長手方向に対してほぼ直交する直線で形成されている。

【００１２】

基材１２には、基材１２を切断するスリット１４が５本設けられている。スリット１４は、基材１２の長手方向に沿って形成され、基材１２の長手方向に対して直交する方向に、互いに並列に並べられている。スリット１４は、中心の一本は基材１２の長手方向に平行な直線であり、側縁部１２ａとの間に位置する２本は側縁部１２ａに沿う曲線で形成されている。また反対側の側縁部１２ｂとの間に位置する２本は、側縁部１２ｂに沿う曲線で形成されている。５本のスリット１４の各両端部は、基材１２の基材端部１２ｃ，１２ｄから所定長さ内側に位置している。一対のスリット１４の間、または側縁部１２ａ，１２ｂとスリット１４の間は、細長い帯状片１６となり、基材端部１２ｃ，１２ｄ付近のス

リット１４が設けられていない部分は、帯状片１６の基端部１６ａ同士を連結する連結部１８となる。

【００１３】

基材１２の片面には、粘着剤が塗布されて粘着層が設けられている。また粘着層の外側には、剥離シート２０が取り付けられている。スリット１４は、基材１２を剥離シート２０に取り付けてから切断とスリット１４の形成を行っても良く、剥離シート２０にもスリット１４が連通して形成されても良い。粘着剤は例えば刺激性の少ないアクリル系を使用しており、通気性に優れている。

【００１４】

次に、このテーピングテープ１０の使用方法について説明する。テーピングテープ１０の貼り方は簡単であり、例えば痛みのある場所に限定した貼り方をする。テーピングテープ１０は張力を利用するものであり、身体に粘着するときは皮膚や靭帯、筋肉等が伸縮しすぎないように自然な体位で行い、またテーピングテープ１０は緩みのない程度に伸ばして粘着する。

【００１５】

テーピングテープ１０の使用方法について図２、図３に基づいて具体的に説明する。この場合は、五十肩、肩関節炎、野球肩、肩の痛み等の治療を行うものであり、患者はいすに座った自然な姿勢でテーピングを施される。まず、テーピングテープ１０から剥離シートを剥がして粘着層を露出させ、僧帽筋（首から肩、背中にかけて走っている筋肉）中央より三角筋にかけて貼る。次に図２に示すように肩の周囲を囲むように、中指くらいの間隔で帯状片１６を外側から順に広げていく。図３は、全部の帯状片１６を広げ終わった状態を示す。

【００１６】

テーピングテープ１０を使用する部位は、肩の他に、首、肘、手・指、胸・背中・腹部、腰、股関節、尻から太もも、膝、下腿部、足等、いろいろな部位が可能である。痛みのある部位、何らかの運動をしていていつも痛みが出る場所、捻挫・打撲・脱臼等の事故後の応急処置に使用可能である。特に、痛みのある場所への使用は、急性、慢性の痛みのある場合の使用に関して非常に効果を発揮する。スポーツ等による故障の予防や、痛みのひどい場合は、二枚のテーピングテープを互いに交差させて粘着すると効果が高い。

【００１７】

この実施形態のテーピングテープ１０によれば、確実に身体に密着した状態で粘着され、患部の形状に合わせて自由な形状に帯状片１６を拡げることができる。帯状片１６の外側の複数本は外側に湾曲して設けられているため、所望の位置に広げても変形が大きくならず、帯状片１６連結部１８近傍の基端部が皺になったり、身体から浮き上がって剥がれたりすることがない。これにより、身体に確実に密着し、筋肉の痛みを取る効果を十分に得ることができる。また、テーピングテープ１０に皺や浮き上がりが発生しないため、テーピングテープ１０の上に衣服を着用しても、凹凸がなく違和感がなく自然であり、また粘着層が衣服に付いてしまうこともない。テーピングテープ１０は貼り方が簡単であり、誰でも使用することができる。このテーピングテープ１０を身体に粘着することにより、緊張した筋肉を緩ませ、皮膚、筋肉、靭帯等を保護する。これにより、全身の筋肉バランスを細部にわたって平均化させ、痛みをやわらげることができる。また、各帯状片１６は長手方向の中央寄りに収縮して皮膚を引き寄せるため、皮膚に波板状に皺が形成され、リンパ液の流通が活発になるため、手術後の浮腫や出来物の浮腫を抑制する効果もある。

【００１８】

なお、この発明のテーピングテープは、上記実施の形態に限定されるものではなく、大きさや形状は、粘着する部位に合わせて適宜変更であり、帯状片の本数も変更可能である。素材も、柔軟性と通気性を有するものであれば、自由に変更可能である。

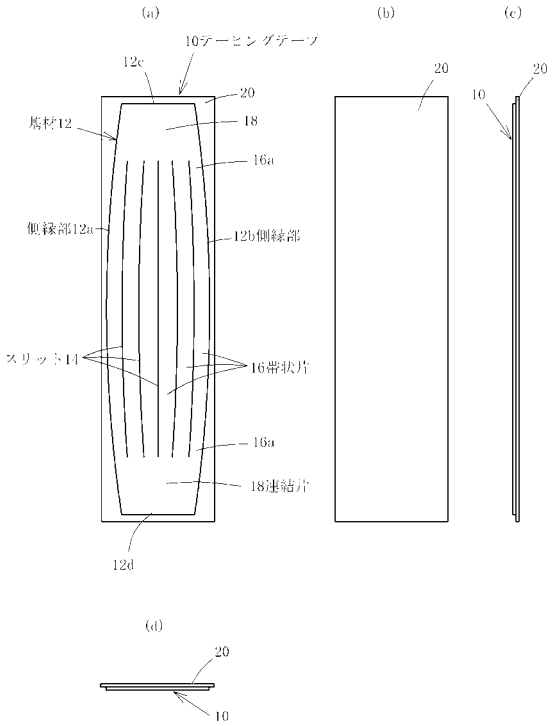
【図面の簡単な説明】

【００１９】

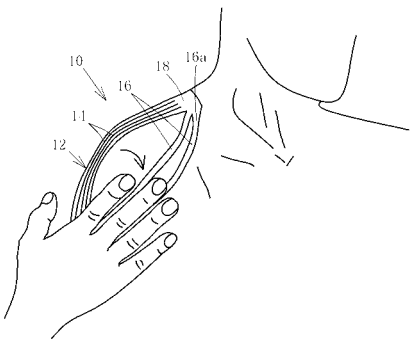
【図１】この発明の一実施形態のテーピングテープを剥離シートに貼付した状態の正面図

（ａ）、背面図（ｂ）、右側面図（ｃ）、底面図（ｄ）である。
【図２】この実施形態のテーピングテープの貼付状態を示す斜視図である。
【図３】この実施形態のテーピングテープの使用状態を示す斜視図である。
【図４】従来の技術のテーピングテープの使用状態を示す斜視図である。
【符号の説明】
【００２０】
１０　テーピングテープ
１２　基材
１２ａ，１２ｂ　側縁部
１２ｃ，１２ｄ　基材端部
１４　スリット
１６　帯状片
１８　連結部

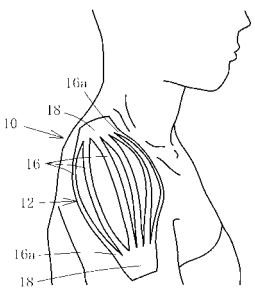
【図１】



【図２】



【図３】



【図４】

